

人間社会研究科の案内・指導内容

1. 人間社会研究科案内
2. 人間社会研究科指導内容

履修概要

1. 人間社会研究科修士課程授業科目表（情報社会専攻）
2. 大学院修士課程情報社会専攻における履修モデルについて
 - 2.1 情報社会専攻「情報社会システム教育研究分野」の履修科目
 - 2.1.1 履修モデルA
 - 2.1.2 履修モデルB
 - 2.1.3 履修モデルC
 - 2.2 情報社会専攻「デジタル・ケア教育研究分野」の履修科目
 - 2.2.1 履修モデルA
 - 2.2.2 履修モデルB
3. 人間社会研究科修士課程授業科目表（心理学専攻）
4. 大学院修士課程心理学専攻における履修モデルについて
 - 4.1 心理学専攻「実験心理学教育研究分野」の履修科目
 - 4.1.1 履修モデルA
 - 4.1.2 履修モデルB
 - 4.1.3 履修モデルC
 - 4.2 心理学専攻「臨床心理学教育研究分野」の履修科目
 - 4.2.1 履修モデルA
 - 4.2.2 履修モデルB

教職課程

1. 本学で取得できる教育職員免許状の種類と教科
2. 教職課程の履修登録方法
3. 教育職員免許状の取得に必要な単位の修得方法

人間社会研究科では、情報技術と、行政・経営、映像・音響など他分野との融合領域を網羅した情報社会専攻、心理学の高度でより専門的な知識と技能を持った研究技術者や公認心理師(国家資格)、臨床心理士の養成を目的とした心理学専攻の2専攻を設置しております。また本研究科では、最新の研究設備を備えるとともに、学内外で幅広く先導的に活躍する優れた教授陣が指導にあたります。社会で即戦力として活躍できるプロフェッショナルを養成すると同時に、地域の研究拠点としても活動しています。

情報社会専攻

本専攻には、情報社会学科における教育内容と連動して、情報社会システム教育研究分野とデジタル・クリエイター教育研究分野の2分野があります。各分野では、情報技術力、法律や経済などの社会知識、映像・音響の創造的表現力など幅広い要素を核に、高度な知識と確かな技術を身につけた人材の養成を目指しています。

◆情報社会システム教育研究分野◆

行政知識と経営知識、および、情報技術の習得を知識基盤とした行政情報システムやビジネス情報システムの創成を担う人材を養成します。修了後は、ITプロジェクト・マネージャーやITコンサルタント、企業経営とIT戦略の双方に責任をもつCIO(情報統括責任者)など高度な専門的職業人や研究者として活躍することが期待されます。

◆デジタル・クリエイター教育研究分野◆

デジタル技術を活用した各種コンテンツ制作に必要な専門知識と情報化社会に求められる幅広い教養を兼ね備えた人材を養成します。修了後の進路は、CG映像制作者や音響デザイナー、Webデザイナー、メディア・デザイナー、次世代サービス開発における専門的職業人および研究技術者、行政や企業の広報部門といった幅広い分野での活躍が期待されます。

心理学専攻

本専攻では、実験心理学に関連する最先端の研究施設や臨床心理センターを活用して、基礎心理学と臨床心理学の両面から、少人数による徹底した教育・研究を行っています。人間の行動を科学的に解明し、高度な専門知識と技能を持った研究技術者や公認心理師(国家資格)、臨床心理士を養成することに主眼を置いています。

◆実験心理学教育研究分野◆

認知科学について深く学び、最新の研究技法を駆使して自ら研究を進めていくことができる研究技術者を養成します。

修了者の進路としては、大学、企業の研究機関において活躍できる研究者・研究技術者や心理職公務員などが想定されています。

◆臨床心理学教育研究分野◆

臨床心理学についての専門的な知識と、心理臨床にかかわる場合の姿勢を学び、高度な専門性を求められる職業人としての公認心理師(国家資格)や臨床心理士(第1種指定校)を養成します。また、臨床心理学教育研究分野の大学院生の臨床実習施設として「埼玉工業大学臨床心理センター」が設置されています。

2. 人間社会研究科指導内容

情報社会専攻

情報社会システム

教育研究分野

高度の行政知識・経営知識と情報技術を駆使しうる能力の育成を基盤として、知識基盤社会で求められている豊かな創造力と構想力を備えたITプロジェクト・マネージャーやITコンサルタント、さらには、企業経営とIT戦略の双方に責任を持つCIO (Chief Information Officer, 情報統括責任者) などの分野で活躍が期待できる人材を養成します。

村山 要司 教授

工学博士 (日本大学)

◆研究テーマ例

デジタルマーケティング
最適化、シミュレーション
ビジネスプロセスの効率化

◆研究指導内容概略

経営における諸問題に対してコンピュータサイエンスを用いて解決を図る。マーケティング戦略、生産・流通マネジメントやビジネスプロセス等の広範囲な実問題に対し、モデリング及び最適化や、その解法としてのAI (機械学習)、遺伝的アルゴリズム、群知能等の応用をテーマとして、研究指導を行う。

◆略歴・学会活動等

東芝情報システム株式会社、その後ITベンチャー代表取締役社長、
日本大学生産工学部非常勤講師等を経て令和3年本学教授就任。
日本情報ディレクトリ学会、日本ロジスティクスシステム学会会員

高橋 広治 教授

理学博士 (京都大学)

◆研究テーマ例

星団の進化
コンピュータ・シミュレーション
データ解析

◆研究指導内容概略

高度情報社会である現代においては、膨大な量のデータが刻々と生み出されている。そのようなデータを、人間にとって有用な真に生きた情報として活用するためには、各々の問題に合った適切なデータ処理を高速に行うことができる情報システムが必要不可欠である。そのようなシステムの構築を目指して、コンピュータを使った検索、分類、統計解析、データマイニングなどの様々なデータ処理の手法の開発や、それらの手法を応用した社会現象の分析などをテーマとした研究指導を行う。

◆略歴・学会活動等

日本学術振興会特別研究員、東京大学大学院リサーチ・アソシエイト等を経て、平成14年本学助教授就任。平成25年現職。
日本天文学会、国際天文学連合(IAU)、情報処理学会会員

本吉 裕之 准教授

経営管理修士 (早稲田大学)

◆研究テーマ例

経営企画/新ビジネス企画構築
ツーリズム/ホスピタリティ/地方創生

◆研究指導内容概略

「人の心を掴み、感動を与える」ビジネスやサービスを研究。
様々な事例や失敗例、時流・タイミング・社会心理などがもたらす消費行動調査し、アイデアを生み出す「目的展開」をベースに研究指導を行う。

◆略歴・学会活動等

JTB、株式会社一休(一休.com)、
東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科 准教授を経て
令和3年本学准教授就任。

林 信義 教授

経営学修士 (横浜国立大学)

◆研究テーマ例

ビジネスモデル
経営戦略/経営管理

◆研究指導内容概略

企業が持続的に成長していくためには顧客に対して他社よりも優れた価値を提供することが必要である。企業はこのような優位性を獲得することを目指して、開発、生産、物流、販売などの活動を行っている。実際の企業活動を調査分析し、優れたビジネスモデルについて研究指導を行う。

◆略歴・学会活動等

株式会社日本総合研究所を経て、平成27年本学教授就任。
日本ビジネスモデル学会

田中 克明 准教授 修士(情報科学)(早稲田大学)

◆研究テーマ例

知的活動支援システム
文書解析・処理システム

◆研究指導内容概略

人間が行うさまざまな知的活動の支援や、新しい領域の開拓が、コンピュータを利用したシステムによって可能となった。これらのシステムは、データを集める仕組み、データから学習を行う仕組み、学習結果を適用する仕組みなど、様々な仕組みの組み合わせにより構成される。このようなシステムの構築について、研究指導を行う。

◆略歴・学会活動等

東京大学先端科学技術研究センター助教、一橋大学情報基盤センター助教などを経て、平成28年本学准教授就任。
人工知能学会、情報処理学会会員。

李 艶 紅 准教授 博士(法学)(早稲田大学)

◆研究テーマ例

種類株式制度
株式会社の株式所有構造(Dual Class Structuresなど)
会社支配権のあり方
証券市場の上場規制

◆研究指導内容概略

現代では経済環境が目まぐるしく変化しています。私の講座では、このような時代において、企業・ビジネスに関連するさまざまな法制度がどのようなべきかということ、企業をめぐるさまざまな利害関係を考慮しつつ、多角的に研究を行っていきます。これにより、将来、法曹や法務部スタッフを目指す学生さんにとってはもちろんのこと、仮にそういった法律に直接関わる仕事に就かない学生さんにとっても有益な内容になればと考えています。

◆略歴・学会活動等

早稲田大学法学学術院比較法研究所・助手、日本証券業協会・客員研究員、税務大学校、立教大学経済学部および清和大学法学部・非常勤講師などを経て、平成30年本学講師就任。
日本私法学会会員
東京商事法研究会会員

デジタル・クリエイター

教育研究分野

現代の文化状況及び情報科学の研究状況を踏まえ、コンピューター・グラフィックス、コンピューター・ミュージック、マルチメディアなどに関する最先端のスキルの学修を基礎に、映像と音響というコンテンツ作製における主要な2領域において少人数の徹底した指導を行うことにより、単に個としての表現者にとどまらず、行政や企業の広報部門、マスコミなど、変化し発展する現代社会の多くの新しい領域で活躍できる人材を養成します。

中川 善裕 教授 芸術学修士（東京藝術大学）

- ◆研究テーマ例
デジタル音響機器による音楽表現の可能性とその応用/
Maxを用いたインタラクティブ作品の制作/
Maxを用いたアルゴリズム作曲法/Csoundを用いた音響合成と音楽制作

- ◆研究指導内容概略
近年、発達目覚ましいコンピュータ等のデジタル機器の登場によって、音楽制作の様相は著しく変化してきた。五線譜と鉛筆と楽器と演奏者、そして録音スタジオが一つのノートパソコンに収まるようになった今では、単なる効率性の追求という意味合いだけではなく音楽的内容の変化の可能性も秘めている。それらの可能性に目を向けながら、新しい時代の音楽表現法を教育研究する。具体的には、コンピュータ上で合成された音と現実の音を用いた音響作品の制作や、アルゴリズム作曲、コンピュータ援用作曲など、作曲家の思考をコンピュータ上で行う可能性を教育研究する。

- ◆略歴・学会活動等
洗足学園音楽大学・東京藝術大学非常勤講師を経て、平成18年本学助教就任、平成24年現職。
日本作曲家協議会、日本電子音楽協会、先端芸術音楽創作学会

宮井 里佳 教授 文学修士（大阪大学）

- ◆研究テーマ例
中国中世の浄土思想
文学作品における人間観
マンガ・アニメに見られる宗教思想

- ◆研究指導内容概略
中国・日本の宗教思想を主な対象とし、古典文献の読解およびその現代社会への応用に関する研究指導を行う。

- ◆略歴・学会活動等
大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。
(財)東方研究会専任研究員、天台宗典籍編纂所嘱託、日本学術振興会特別研究員等を経て、平成14年本学講師就任、平成17年本学助教就任、平成25年現職。
日本仏教学会、東方学会、日本印度学仏教学会、日本中国学会、日本宗教学会等会員

森沢 幸博 教授 修士（メディアデザイン学）（慶應義塾大学）

- ◆研究テーマ例
コンピューター・グラフィックス、ヒューマンコンピュータインタラクション、XR(AR, MR, VR)メディア

- ◆研究指導内容概略
人間の感覚を拡張するデジタル技術によって、アート表現やコミュニケーション手法は大きく進歩する可能性を持っている。教育指導では、次世代のデジタルメディアと人の関係に注目し、コンピュータを利用したメディアアートやデジタルアニメーション、グラフィックデザイン等の制作を通じて、クリエイターに求められる創造性やデジタルコンテンツ、Webサイト制作スキル等の修得を目指す。

- ◆略歴・学会活動等
埼玉女子短期大学大学准教授・玉川大学リベラルアーツ学部非常勤講師を経て、平成27年本学准教授就任。情報処理学会、ヒューマンインタフェース学会所属。財団法人画像情報教育振興協会認定CG講師

檀上 誠 教授 修士（メディアデザイン学）（慶應義塾大学）

- ◆研究テーマ例
コンピューターグラフィックスを用いたデジタルコンテンツ制作/
実写合成とUVFX

- ◆研究指導内容概略
メディアに付加価値を与えるデジタル化されたコンテンツは人々を心豊かにするという重要な役割を担っている。人々に楽しさや感動を与えられるデジタルコンテンツを創造するために必要な知識及び技術を修得できるよう指導する。研究過程においては、主に2DCG、3DCGを用いた実製作を通じ、必要とされる知識や技術を吸収しながら、豊かな創造力と表現力を身につけてゆく。

- ◆略歴・学会活動等
女子美術大学専任助手、非常勤講師を経て平成22年度本学講師就任、平成25年現職。
ACM SIGGRAPH、早稲田大学エジプト考古学学会

永本 義弘 教授

国際学修士(上智大学)

- ◆研究テーマ例
政治的文脈の中で、言語形式(言語表現)がどのような変容を受けるのか、また、言語形式から如何なる政治的文脈が読み取れるのかを研究テーマとしている。
- ◆研究指導内容概略
言語形式とその意味は、使用環境から逃れることはできない。文構造適格・不適格の判断が微妙になればなるほど、人間関係、発話者にとっての目的と利益、語用論的文脈などに左右される。ここでは、歴史、外交、国際関係、英語教育等に関する英文論説を通じて、その分野に関する背景知識、即ち、使用環境を理解しつつ、英文把握力を深化させる。
- ◆略歴・学会活動等
上智大学外国語学部英語学科卒
上智大学大学院外国語学研究所国際関係論専攻博士前期課程修了
九州栄養福祉大学准教授
英米文化学会会員
防衛省軍事史学会会員

平田 文子 講師

**修士(教育学)
(日本女子大学大学院)**

- ◆研究テーマ例
教育思想の研究(ルソー、デュルケーム、コメニウスなど)
各国の教育制度の比較研究
- ◆研究指導内容概略
教育の営みは、人類史の始まる頃から行われてきたことである。文化によって様々な形で表れる教育という営みや思想について考察し自分なりの考えを持ってほしい。また、教育と宗教の関わりについても関心を持ってもらう、幅広い視野を持ってもらいたいと考えている。
- ◆略歴・学会活動等
早稲田大学、東海大学などで教職課程科目の非常勤講師を経て
2020年度から本学に就任。

◆ 情報社会専攻授業科目 ◆

専攻共通科目

情報セキュリティ特論
知識情報特論
知識情報特別演習

東洋思想研究
教育文化研究特論

英文構造分析 I
英文構造分析 II

情報社会システム教育研究分野

システム開発方法特論
シミュレーション特論
ネットワーク・システム特論
意思決定支援システム特論
地域情報化特論
経営情報システム特論
企業戦略特論

情報社会特別演習 I
情報社会特別演習 II
情報社会システム創造プロジェクト特別演習 I
情報社会システム創造プロジェクト特別演習 II
情報社会システム創造プロジェクト特別演習 III
情報社会システム創造プロジェクト特別演習 IV

< 特別研究(修士論文) >

デジタル・クリエイター教育研究分野

ヒューマン・インターフェース特論
知覚心理学特論
イメージ創造特論
マルチ・メディア情報処理特論
映像情報特論
デジタル音響表現特論
メディア作曲法特論

情報表現特別演習 I
情報表現特別演習 II
情報表現特別演習 III
情報表現特別演習 IV

< 特別研究(修士論文) >

心理学専攻

実験心理学

教育研究分野

実験心理学教育研究分野では、知覚や思考などの情報処理プロセスを研究する認知科学を軸に、心を生み出す脳の仕組みや働きを研究する脳科学、人間行動の基本原理を研究する行動科学などの専門的なカリキュラムが構成されています。これにより、最先端の実験心理学研究に寄与しうる研究技術者の養成を図るとともに、心理学関連の専門職(心理職公務員等)への就職あるいは大学院博士課程に進学し、研究者となることが可能な人材を教育することを目指しています。

曾我重司 教授 博士(学術)(千葉大学)

◆研究テーマ例

奥行き知覚に関する現象的研究
運動の知覚に関する現象的研究

◆研究指導内容概略

- 運動対象の速度知覚、時間知覚の現象的・実験的研究
 - 奥行き知覚に関わる規定要因の現象的・実験的研究
- 以上のテーマを基本とし、現象をいかに捉えるか、観察するということとはどのようなことか、について教育指導を行う。
- 特に現象的視点から、動き、奥行きなどの知覚についての環境からの情報は何か、また有機体がどのように環境に働きかけた結果そのような知覚が生じるのかについての研究を行う。

◆略歴・学会活動等

千葉大学教務補佐員、慶應義塾大学非常勤講師等を経て、平成14年本学助教就任、平成23年より現職。
日本心理学会、日本基礎心理学会、日本アニメーション学会、日本応用心理学会

河原哲雄 教授 教育学修士(東京大学)

◆研究テーマ例

文章理解と知識獲得/言語獲得過程の計算モデル/
アナロジーによる問題解決/メタファ理解過程の実験的研究/
カテゴリ学習のニューラルネットワーク・モデル

◆研究指導内容概略

人間が経験からの帰納によって知識や技能、言語能力などを獲得するオンライン認知過程を、心理学実験やコンピュータ・シミュレーション、理論的検討などの手法を用いて研究する。

また、獲得された知識や技能、能力の現実場面における使用過程や、それらが現実場面において有効に機能するための条件といった教育的含意についても研究する。これらの研究領域における最先端の研究を遂行するために必要な、研究計画法やデータ解析法、シミュレーション技法や、各種の実験機器の使用法などについても研究・指導する。

◆略歴・学会活動等

東京大学大学院助手を経て、平成15年本学助教就任、平成24年より現職。
日本認知科学会、認知心理学会、日本心理学会、教育心理学会、基礎心理学会、人工知能学会、神経回路学会

大塚聡子 教授 博士(心理学)(東京大学)

◆研究テーマ例

奥行き知覚の時空間特性
観察者の運動と視対象認知
視覚的注意

◆研究指導内容概略

奥行き(3次元的な空間構造)を知覚する機構の解明に関する教育指導を行う。人間の視覚系は、奥行きを知覚するために、両眼視差(2つの目の間の網膜像のずれ)や運動視差(観察者の運動により生じる網膜像の動き)など複数の手がかりによる情報を統合していると考えられている。本研究室では、心理学的手法により、これらの手がかり情報を処理し統合する機構を明らかにする研究を行う。また、観察者の探索的な身体運動や眼球運動が奥行き知覚や視対象認知に及ぼす影響についても扱う。

◆略歴・学会活動等

東京大学IML研究機関研究員等を経て、平成14年本学講師就任、平成17年准教授、平成26年より現職。
日本心理学会、日本基礎心理学会、日本視覚学会、日本認知心理学会、アフリカ視覚眼科学会等

臨床心理学

教育研究分野

「公認心理師」と「臨床心理士」養成カリキュラム

この教育分野は、平成29年9月に施行された「公認心理師法」により、国家資格である公認心理師カリキュラムに則した授業科目を用意しており、当該科目を履修し、修士課程を修了することで、公認心理師の受験資格が得られます。また、臨床心理士資格認定協会の規定する第1種臨床心理養成課程の指定も受けています。大学付属の臨床心理センターに心理相談室を設けて、一般の外來相談を受けて、教員及びカウンセラーの指導のもとに、大学院生の心理臨床の実習を行います。*学部ですべての公認心理師指定科目の単位を取得している(もしくは特例措置を受ける)必要があります。

三浦 和夫 教授	教育学修士(上智大学) 臨床心理士・公認心理師
◆研究テーマ例	心理療法プロセスに関する研究 箱庭療法に関する研究
◆研究指導内容概略	主に個人心理療法に関わる領域の研究をおこなう。また、家庭教師やボランティアといったいわゆる非専門家によるアプローチにも関心を持っている。 その他、個人あるいはグループによる箱庭療法によるアプローチを指導する。
◆略歴・学会活動等	平塚市教育研究所教育相談員、目黒区守屋教会館教育相談室教育相談員、山王教育研究所カウンセラーを経て、平成14年本学准教授就任、平成20年現職。 日本心理臨床学会、日本箱庭療法学会

友田 貴子 教授	修士(心理学)(東京立大学) 臨床心理士・公認心理師
◆研究テーマ例	抑うつ気分からの回復と心理社会的要因の関連について スポーツ・遊びと精神的健康
◆研究指導内容概略	社会臨床心理学に関わる領域の研究を主に扱う。例えば、ストレス、原因帰属過程、ソーシャル・サポートなどが精神疾患(うつ病や不安障害など)や不適応の予防、発症、回復などにどのような関連があるのかということについて検討する。とくに対人相互作用と精神的健康との関連について、社会心理学のパラダイムを取り入れ検討していく。対人相互作用による個人内および個人間の心理的過程が精神的健康とどのような関連をもつか、精神保健の観点も含め扱う。
◆略歴・学会活動等	立教大学非常勤講師、日本医科大学付属病院心理判定員、国立精神・神経センター精神保健研究所流動研究員等を経て、平成16年本学講師着任、平成27年より現職。日本心理学会、日本社会心理学会、日本心理臨床学会、日本パーソナリティ心理学会、日本うつ病学会、American Psychological Association

藤巻 るり 准教授	博士(文学)(京都大学) 臨床心理士・公認心理師
◆研究テーマ例	幼児や発達障害児のプレイセラピーに関する研究 イメージを心理療法の視点として用いる研究 治療者の意識化過程に関する研究
◆研究指導内容概略	心理療法における治療者の意識化過程について研究を行っている。クライアントの語りの内容だけでなく、語りにならない症状や問題行動を理解する方法としてイメージという視点を重視している。また、幼児や発達障害児のプレイセラピーなど、意味の成立以前の未分化な世界に関わる方法として身体感覚を伴う間主観的な関わりの可能性を研究している。出来事の中に入り込み、そこで感じたことを意識化するという広義の臨床的態度に基づく研究を支援する。
◆略歴・学会活動等	世田谷区教育相談室教育相談員、東村山市幼児相談室幼児相談員、山王教育研究所・カウンセラー、熊谷神経クリニック・カウンセラーを経て、平成25年本学専任講師就任、平成30年より現職。 日本心理臨床学会、日本箱庭療法学会、日本エング心理学会

村中 昌紀 講師	博士(心理学)(日本大学) 臨床心理士・公認心理師
◆研究テーマ例	産業労働領域におけるメンタルヘルスの問題 パーソナリティと対人関係、抑うつに及ぼす影響について
◆研究指導内容概略	パーソナリティなどの要因が対人関係やストレスや抑うつなどの健康との関連などについて臨床心理学、社会心理学の観点から検討を行う。 特に産業労働分野で問題となりやすいメンタルヘルスの問題やキャリア発達とメンタルヘルスとの関連について関心を持っている。 研究の方法としてはデータに基づく実証的研究を重視している。
◆略歴・学会活動等	医療法人育生会塚原病院、日新電機株式会社前橋製作所、群馬労働局嘱託、群馬県警察嘱託、相模女子大学非常勤講師、静岡福祉大学専任講師を経て、令和3年度より本学講師就任。 日本心理学会、日本心理臨床学会、日本パーソナリティ学会

◆ 心理学専攻授業科目 ◆

実験心理学教育研究分野

実験心理学特別輪講 I
 実験心理学特別輪講 II
 認知心理学特論
 知覚心理学特論
 視覚情報処理心理学特論
 学習心理学特論
 心理学研究法特論
 社会心理学特論
 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開
 福祉分野に関する理論と支援の展開

保健医療分野に関する理論と支援の展開
 産業・労働分野に関する理論と支援の展開
 心の健康教育に関する理論と実践
 認知心理学特別演習
 知覚心理学特別演習
 視覚情報処理心理学特別演習

実験心理学特別実験 I
 実験心理学特別実験 II
 <特別研究(修士論文)>

臨床心理学教育研究分野

※臨床心理学特論 I
 ※臨床心理学特論 II
 ※臨床心理面接特論 I
 (心理支援に関する理論と実践)
 ※臨床心理面接特論 II
 心理学研究法特論
 臨床心理学研究法特別輪講

学習心理学特論
 認知心理学特論
 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開
 社会心理学特論
 福祉分野に関する理論と支援の展開
 保健医療分野に関する理論と支援の展開
 教育分野に関する理論と支援の展開
 家族関係・集団・地域社会における
 心理支援に関する理論と実践
 心理療法特論
 乳幼児・心身心理支援に関する理論と実践
 乳幼児心理学特論 II
 思春期・青年期カウンセリング特論
 産業・労働分野に関する理論と支援の展開
 心の健康教育に関する理論と実践

※臨床心理査定演習 I
 (心理的アセスメントに関する理論と実践)
 ※臨床心理査定演習 II
 ※臨床心理基礎実習 I
 ※臨床心理基礎実習 II
 ※臨床心理実習 I
 ※臨床心理実習 II
 ※心理実践実習 I
 ※心理実践実習 II
 ※心理実践実習 III
 ※心理実践実習 IV
 <特別研究(修士論文)>

※の科目は、他教育研究分野の学生は受講できません